

第 278 回福島県災害対策本部員会議  
第 14 回福島県東日本大震災復旧・復興本部会議

○日 時：平成24年8月27日（月）9：36～10：49

○場 所：第一特別委員会室

○内 容

※災害対策本部員会議・・・省略

(1) 復興計画の見直しについて

**企画調整部政策監**：別紙「復興計画の見直し」により説明。

復興計画については、昨年12月に第一次の計画として作成したところだが、原子力発電所事故の収束状況、避難指示区域の見直し等、計画の前提となる事項に大きな変更が生じた場合、適時柔軟に見直しを行うこととしていた。1にあるように、避難指示区域の見直し等が進められていることから、復興計画の見直しに着手することとした。

2の見直しの内容だが、(1)の避難指示区域の見直しに伴うものとして、①生活再建支援など関係プロジェクトの見直しや、②地域別の取組について、市町村の復興に係る構想を尊重した見直しを行うことを想定している。

見直しの進め方については、主に復興計画の進行管理を行うことを目的として設置した復興計画評価・検討委員会において、見直しの方法や考え方について、検討を行うとともに、県議会、関係市町村などの意見を踏まえ、年内の改定を目指してまいりたいと考えているので、よろしく願います。

**内堀副知事**

復興計画の見直しについては、この方針に沿って、しっかりと進めて行くようお願いする。

(2) 復旧・復興に関する事業の進捗状況について

**保健福祉部長**：別紙「復旧・復興に関する事業の進捗状況」により説明

23ページ1「県民健康管理事業」。県民健康管理調査事業については、基本調査、詳細調査を実施している。進捗状況の一番下、ホールボディーカウンターの検査、内部被ばくの検査。県内の子どもや妊婦を優先的に検査を行っている。7月31日現在、累計で約6万3千人の検査を行い、全員が健康に影響を及ぼすような数値ではなかった。

続いて、28ページ17「医療施設災害復旧事業」。6月補正で予算化し、24年度も現在、申請を受け付けている記載となっているが、23年度の災害復旧事業の対象となった病院等238施設だったが、現在、227施設が復旧済みであり、復旧率は、95.4パーセントとなっている。

次に、33ページ31「被災者の心のケア事業」。4月に、心のケアセンターを県内6方部に立ち上げ、仮設住宅、借り上げ住宅の訪問、調査、指導、支援に回っている。7月31日現在の仮設住宅、借り上げ住宅の訪問活動の件数は、3,155件。仮設住宅の集会所等の活動への参加者は、延べ5,215人となった。引き続き、今後、避難が長期化した中で、健康にいろいろな影響が出てくる高齢の方等も非常に心配されることから、県民の皆様の心身の健康をしっかりと見守って参りたい。

**商工労働部長：別紙「復旧・復興に関する事業の進捗状況」により説明。**

16ページ15「緊急雇用創出事業」。被災求職者を雇用する事業者を支援する、「ふくしま産業復興雇用支援事業」。本日27日から9月14日まで、第二回目の募集を行う。ここに記載の通り現在の実績は、計画上14,500人に対し、2,380人と大きく下回っていることから、今回の募集に当たり、助成対象となる国・県の補助金、融資を48施策から75施策に拡大し、要件を満たしやすくしたので、多くの雇用実績を創出したいと考えている。合わせて、広報活動も進めて参りたい。

74ページ5「中小企業等グループ施設等復旧整備補助事業」。5月末の申請で、101グループ、約350億円の申請があったが、審査の結果、49グループ、754社に対し、190億円の交付決定を行った。

78ページ17「ふくしま産業復興企業立地支援事業」。警戒区域等の見直しによる事業活動の可能な区域に新增設する企業を対象に、二次募集を実施した。前回の復旧・復興本部会議の中で、7月下旬目途に企業指定と申し上げたが、現在なお、審査を継続しており、9月上旬には、企業の指定をしたいと考えている。

**農林水産部長：別紙「復旧・復興に関する事業の進捗状況」により説明。**

7ページ17「ふくしまの恵み安全・安心推進事業」。米の全量、全袋検査。検査機器については、当初150台の予定だったが、現在のところ192台の設置が見込まれている。7月18日に、説明会を開催し、その後、研修会を県内3方部で実施した。先週の土曜日、8月25日には、二本松市で早期出荷米に係る全袋検査がスタートした。そのほか、県では別途全袋検査に要する経費について、賠償が支払われるまでの間、県が資金の貸付をして、農業者の負担軽減を図る施策を行っている。米の安全性の確保、消費者の信頼の確保に向けて、努めて参りたい。

次に、58ページ2「ふくしまの恵み販売力強化事業」及び3「新生！ふくしまの恵み発信事業」。首都圏や関西、北海道等で知事、副知事によるトップセールスを行ったほか、TOKIOを起用したCM放送を首都圏で放送してきたところである。これらの効果もあり、桃の販売価格、取引については、昨年と比べ大幅に改善されてきている。それから、「ふくしま新発売。」のホームページをリニューアルして、7月末でホームページの閲覧件数が279万件に上る。8月1日からは、海外向けの英語版の対応もしている。

次に、63ページ14「ふくしま・地域産業6次化推進事業」。9月8、9日に、食の祭典「ごちそうふくしま満喫フェア2012」を、郡山市のビッグパレットで開催することとしている。今回は、県内全域から、200を超える事業者が出店を予定している。その中で、開発された6次化の新商品のPR、あるいは観光と連携した新たな食の提案、復興に向けて頑張っている本県の食の力を全国に発信して参りたい。この中で、米の全袋検査の機械も設置してPRするほか、福島八重隊のデビュー公演も行うこととしているので、新聞、テレビ等を使いながら、開催告知をしているところである。

**内堀副知事**

今年度も5か月が経とうとしているが、あっという間に半年が過ぎるということになるので、こういった復旧・復興への取組というのを、一步一步着実に進めていくようお願いする。